

## 地域とつながる元気な里山

森脇由佳

(国崎クリーンセンター・ゆめほたる)

### はじめに

国崎クリーンセンターでは、「地域とつながる元気な里山」をめざして里山林整備構想・計画(共生のひろば7号, 5 - 8, 2012年3月)を立案しました。これに基づき、平成24年度から施設内の里山林の整備に着手し、今年度(平成25年度)は兵庫県の「野生動物育成林整備事業」として初期整備を進めています。本発表では、この事業による里山林の整備状態、及び国崎の里山林を舞台にした「ゆめほたるクラブ」の活動について紹介します。

### 整備工事



整備工事前の施設内里山林

整備工事では、[エドヒガン群生林の整備]や植生保全のための[防鹿柵設置]を中心に、[歩道・管理道の整備]などを進めています。

#### 【エドヒガン群生林の整備について】

施設内のエドヒガン群生地は、兵庫県レッドデータブックによりBランクの指定を受けているものです。特に、北側の谷には約50本、南側の谷には約150本のエドヒガンが高い密度で生育しています。また、それぞれの谷のエドヒガンの特徴は、北側の谷が大径木であるのに対し、南側の谷は細くて樹高の低い若齢木が多いです(図.1)。その理由としては、南側の谷がヒノキなど常緑樹の被圧により、光条件があまりよくなく、エドヒガンの生育阻害要因になっていると考えられます。

そこで本整備工事では、エドヒガンの生育を促し、後続の世代を育成するため、ヒノキなどの常緑樹を間伐し、光条件等を改善することをめざしています。

南側の谷のエドヒガンが北側の谷の個体サイズ並に育ち、世代が順調に育成できれば、このエドヒガン群生林は、国崎の里山における景観の重要な構成要素となるでしょう。

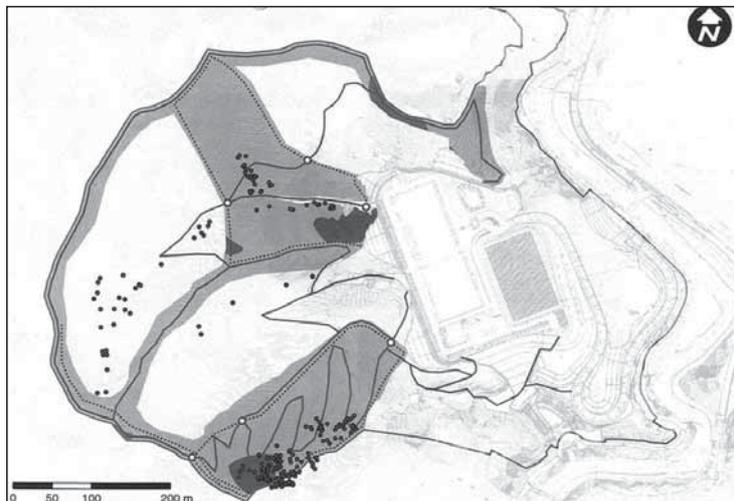


図.1 エドヒガンの分布と防鹿柵設置図

### 【防鹿柵設置について】

施設内の里山林では、近年におけるシカの個体数増加を受けて、シカの採食による植物種の多様性低下や林床の植被率の減少が生じています。里山林における種多様性の保全や防災機能をはじめとする森林の機能を保全するために、防鹿柵を設ける予定です。本整備工事では、地域の景観や風土を構成する重要な要素となるエドヒガン群生林に優先して設置します(図・1)。

### 【歩道・管理道整備について】

施設内里山林を地域の人達が環境学習や癒し・憩いの場として活用できるように、一部自然散策道を施設開設時から設けていました。本整備工事では、既存自然散策道を拡充し、案内板やベンチも増設しました。啓発イベントやワークショップなどの限定的な利用とはなりますが、エドヒガン群生林や点在する間歩群・炭焼き窯跡・ヒメボタル観察等、当施設の特色を地域の人達がより利活用し易いことを目的としています。



森林整備工事中



歩道開設工事中

### 「ゆめほたるクラブ」の活動

循環型社会形成の一助を担う活動を行うことを目的に、環境問題に関心のあるメンバーが、各種環境系啓発活動をはじめ、当センター内の里山林を拠点にした地域の自然環境や景観の保全など、地域のみなさんと共に環境学習を行っています。環境学習は「保全セミナー」と「里山を楽しもう」の2種類を主に取り組んでいます。

「保全セミナー」は、里山保全に関する地域の悩みを共有しながら、問題解決に向けて共に思考できることと、思考し続けられる仲間づくりの場であることとしています。また、「里山を楽しもう」などの家族向け野外イベントは、レクレーションとして里山を楽しみながら、自然と共に生きる喜び・人と共に生きる喜びを感じて頂ける場であることとしています。また、自然を敬い、環境への配慮・他者への配慮ができる次世代の育成を参加者のみなさんと共に思考する場であることを目標としています。

保全セミナー / (兵庫県森林動物研究センター、かもしかの会関西～2013年3月16日～)

施設内の里山林では、近年におけるシカの個体数増加を受けて、シカの採食による植物種の低下や林床の植被率が減少しています。また、設置している防鹿柵も破損箇所があり、シカの採食を抑えられずにいました。この問題を地域共有の悩みと捉え、「シカ害対策セミナー」を開催しました。

室内講義では、兵庫県内のシカによる森林生態系被害の経緯や、森林被害軽減に向けてのシカ管理計画の概要、また被害対策としての防鹿柵の位置づけと、里山での防鹿柵の点検・補修のあり方などを解説して頂きました。

野外での実践講習では、施設内防鹿柵を活用して点検・補修を実習しました。



防鹿柵補修実演



防鹿柵補修実習

保全セミナー / (兵庫県阪神農林振興事務所・森林林業技術センター、アース製薬株式会社  
～ 2013年3月2日～)

近年におけるナラ枯れの被害が地域にとっても問題となってきました。この問題を地域共有の悩みと捉え、「ナラ枯れ防止対策実践セミナー」を開催しました。

室内講義では、兵庫県のナラ枯れの現状とその発生のメカニズムや防止対策について解説して頂きました。

野外での実践講習では、カシノナガキクイムシ捕獲シートを使い、施設内コナラ樹林でシート取付けを実習しました。



捕獲シート取付け実習 /  
全面巻き付け



捕獲シート取付け実習 / 局部貼り付け

保全セミナー / (ユニチカ株式会社・公益社団法人兵庫みどり公社～2014年1月9日～)

兵庫県内では里山林保全活動のボランティア団体が多く、地域の里山林保全の大きな力となっています。ただ、近年における人材の高齢化・少人数化などの問題を抱え、作業の効率化・軽減化などが課題となっています。この問題を地域共有の悩みと捉え、「搬出シューターセミナー」「丸太階段設置セミナー」を同日開催しました。またこのセミナーは本施設の野生動物育成林整備工事に連携して実施しました。参加者は地域の里山保全団体のみならず、近畿圏から広く参加頂きました。

#### 1) 搬出シューター

少人数で、森林から手軽に伐木搬出できる搬出シューターの使い方の実践講習をしました。

実習地は野生動物育成林整備工事中の施設内里山林で、実習地に係る森林整備の工期を調整しながら実施しました。また、搬出実習では森林整備工事による伐木を使用しました。

参加者は取り付け方法のレクチャーをユニチカ株式会社から受けるだけでなく、設置方法や商品に対する改善点の提案をしたりなど、活発な意見交換が参加者同士、また参加者・講師間でなされました。

#### SWC について

- ・SWC (SkyWoodChute: スカイウッドシュート) は、簡単に言えば布製の滑り台です。架設撤去が容易であり、小径木やバイオマスの搬出を安全かつ迅速に行うことができる機動性が高い簡易集材装置です。
- ・SWC の特徴
- ・少ない人数でも作業可能です。
- ・中間支持により地形の起伏にも対応します。

#### 作業手順

架設の手順は以下の通りです。

1. 架設場所の条件
2. 架設木の選定
3. SWC の展開
4. SWC の固定・展張
5. 中間支持の取り付け・屈曲
6. 試験滑走
7. SWC による集材



伐木搬出 / 投入口



伐木搬出 / 全景

## 2) 丸太階段設置

公益社団法人兵庫みどり公社による室内講義では、地盤の違いなどによる丸太階段の種類、設置に使用する道具、材料やその防腐処理、設置の手順などの解説を受けました。野外での実践講習では、整備工事中の歩道を活用して実際に丸太階段を設置しました。実習地は野生動物育成林整備工事中の施設内里山林で、実習地に係る開設歩道・階段工事の工期を調整しながら実施しました。また、実演講習では森林整備工事による伐木を使用しました。

終了後には、参加者から過去の設置経験にまつわる具体的な質問が多く出され、案件別に解説を受けました。



実習地 / 整備工事中開設歩道



伐木による階段設置実演

チェーンソー安全講習会 / (大阪森づくり安全技術・技能地域推進協議会、NPO法人日本森林ボランティア協会 ~ 2013年3月4日6日8日 ~)

近年、里山への関心が各方面に広がりを見せ、保全活動も様々な人が参加するようになってきました。女性の方、高齢の方、都住在住の方など、保全活動での知識面・技術面・体力面・気持ちにおいても一様ではありません。持続可能な里山保全に必要な一人一人の健やかで楽しい活動を目指し、技術向上のための講習会を開催しています。今回はチェーンソー安全講習会を開催しました。チェーンソーによる伐木に関する講義及び施設内ヒノキ林で伐木研修を3日間実施しました。



ヒノキ林での実習

- ・ 1日目：チェーンソーや関係法令及び振動障害についての講義を受けました。
- ・ 2日目：チェーンソーの操作・点検の実習の後、施設内ヒノキ林で伐木の実践講習を受けました。
- ・ 3日目：2日目の内容と併せて、チェーンソー整備・清掃片付までを行いました。

## 里山を楽しもう

春と秋にファミリー向けの野外レクリエーションイベントを開催しています。施設内里山資源のみならず、地域資源も活用しながら、里山を愛する心を育み、里山保全活動への関心が盛り上がるように心がけています。また近年、食の安全が危ぶまれる中、野外調理では地域の特

産品を見直すきっかけとなるような内容を心掛け、地産池消による「美味しい・楽しい」里山保全体験も取り入れています。

1) 里山を楽しもう / 春 ~ 2013年3月24日~

春は、里山散策・竹食器作り・炭火による野外調理などを楽しみました。

里山散策では「里山」の話を聞きながら炭焼き窯跡見学などを楽しみました。食器作りに使用した竹は地域の人からご提供頂き、野外調理で使用したダリアの球根は黒川ダリア園から、炭は県立一庫公園からご提供頂きました。



野外調理 / 炭火焼ケーキ

2) 里山を楽しもう / 秋 ~ 2013年10月20日~

秋は、オリエンテーリング、丸太切大会、地域で捕れたシカ肉や地産のシイタケを使用したホウバ焼きなどの調理をみなさんで楽しみました。

オリエンテーリングでは、施設内植物を活用したクイズラリーを楽しみました。丸太切大会で使用した丸太は、チェーンソー講習会で伐木した間伐材を利用しました。ホウ葉焼きで使用したホウ葉やサンショウは施設内で採集し、シカ肉は地域の人から安価でご提供いただきました。

まとめ

サステナブル（持続可能）な里山保全には、里山林整備というハード面と共に、「地域とつながる元気な里山」として利活用されるソフト面の充実が重要だと考えています。

ゆめほたるでは、今後の里山林整備の中でも、エドヒガンの次世代林育成事業を、地域のみなさんと共に楽しみながら実施（レクリエーションイベント等）する予定です。子どもからお年寄りまで楽しめる、地域をはじめ多くの方々に来ていただける、そんな「地域とつながる元気な場」を目指した里山活動を継続していきます。

50年、100年・・・未来へ、エドヒガンが美しい時をきざみ続けるように、人々の自然を敬う気持ちも、未来へつながりましますように。